



暮らしを豊かにす

地域創生の

チカラを身につけ

〈学部の特徴〉

21世紀は、人類が大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会へと大転換する時代です。「食料」「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」等どれをとっても、今ほど人類がその重要性を強く意識した時代はないでしょう。そして、これらの課題こそ農学が得意とするところであり、時代は農学の発展を必要としています。農学は、理系から文系にわたる分野を含む、基礎から応用に及ぶ総合科学です。農学部には、「食料」「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」を対象とするさまざまな教育研究分野が揃っています。本学部だけでミニ総合大学といっても過言ではありません。入学すれば皆さんの希望する分野がきっと見つかるでしょう。

■ 教育目標

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】
農学部では、農学および関連する学問領域において、多様な社会的要請に応える深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での農業および関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。

る

Faculty of Agriculture

農学部

生物資源科学科

- ▶ 生物科学コース
- ▶ 食資源環境科学コース
- ▶ 生命機能科学コース
- ▶ 国際・地域マネジメントコース

る。

生命機能科学科
市村 咲希 山口県 山口高等学校出身

■ 在学生インタビュー



農業を通して人間的に成長し続け、 “食”で高齢の方々を笑顔にしたい。

生物学をより専門的に学びたくて農学部を志望し、植物の応用研究に興味があったので応用生物科学科を選びました。好きな授業は熱帯作物改良学で、熱帯地域の国の話はとても面白いです。佐賀県は農業に積極的な土地なので、本学の周辺でも田畑をよく見かけ、日常的に農を感じることができます。何より学内に圃場があるのですぐ作業に取り掛かれますし、作物を世話して一部を研究材料に使うことができるなど、農業を学ぶのもってこいの環境だと思います。今後の目標は、高齢世代の人々を食を通して笑顔にできる仕事に就くことです。そして人間的にも成長し続け、自らの人生を楽しむことも忘れずにいたいと思っています。

応用生物科学科
富重 志織 福岡県 香住丘高等学校出身

インタビュー動画も
ご覧いただけます



充実の設備で実践学習 体験し、学び、身につける

01 1年次に各専門科目の基礎を学びながら 自分の希望コースをじっくり選択

農学部には「食料」や「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」など、それぞれ特色が異なるさまざまな研究分野があります。そこで、まず1年次に農学の基礎科目である生物学、物理学、化学を必修とし、深い専門性を身に付ける素地を構築。専門導入科目で農学に関する基礎知識を幅広く十分に修得したうえで、2年次の専門コース選択へと進みます。



[4年間の学び]



KEY POINT

専門導入科目

1年次の後学期から始まるカリキュラム。前学期で基礎を十分に修得したうえで、各専門科目の導入部分に触れていきます。2年次から始まる専門コースの教育に必要な幅広い素養を身に付けると共に、各コースでどのようなことが学べるのかをあらかじめ知ることで、コース選択の際に確かなマッチングが行えるようにします。

KEY POINT

食農基礎技術マスタリー特別教育プログラム

食と農に関する基礎技能を習熟・定着させることを目的とした「食農基礎技術マスタリー特別教育プログラム」を、新しく開設。実習やインターンシップを重視したカリキュラムで、農林水産業や食料に関する専門的知識と実際の農業を総合的に学びながら、日本農業技術検定の取得を目指します。

02 充実した食農キャリア教育で、 国際的視野で将来ビジョンを設計

ビジネスとしての農業を基礎から学ぶ 食農基礎技術マスター特別教育プログラム

農業生産の効率化や高付加価値化などを旨とする「農業ICT学」や、幅広く農業に関わる職業を知る「アグリキャリアデザイン」などの授業科目をはじめ、地元の農業経営や企業等との産学連携を通じた食と農に関する専門教育に積極的に取り組んでいます。時代の変化と共に変わっていく農業ビジネスを身近に感じ、広い視野を持つことで将来のキャリアデザインを支援します。

国際社会でも広く活躍できる人材を育成 (国際・地域マネジメントコース)

アジア・ フィールドワーク

地域社会における人々の生活・生業・環境・健康問題をグローバルな視野で考察する基礎力を養うため、アジア各国の農山漁村でフィールドワークを行います。現場での調査活動や現地の学生らとのディスカッションなどを通じて、持続可能な社会のあり方について考えます。



国際・地域 インターンシップ

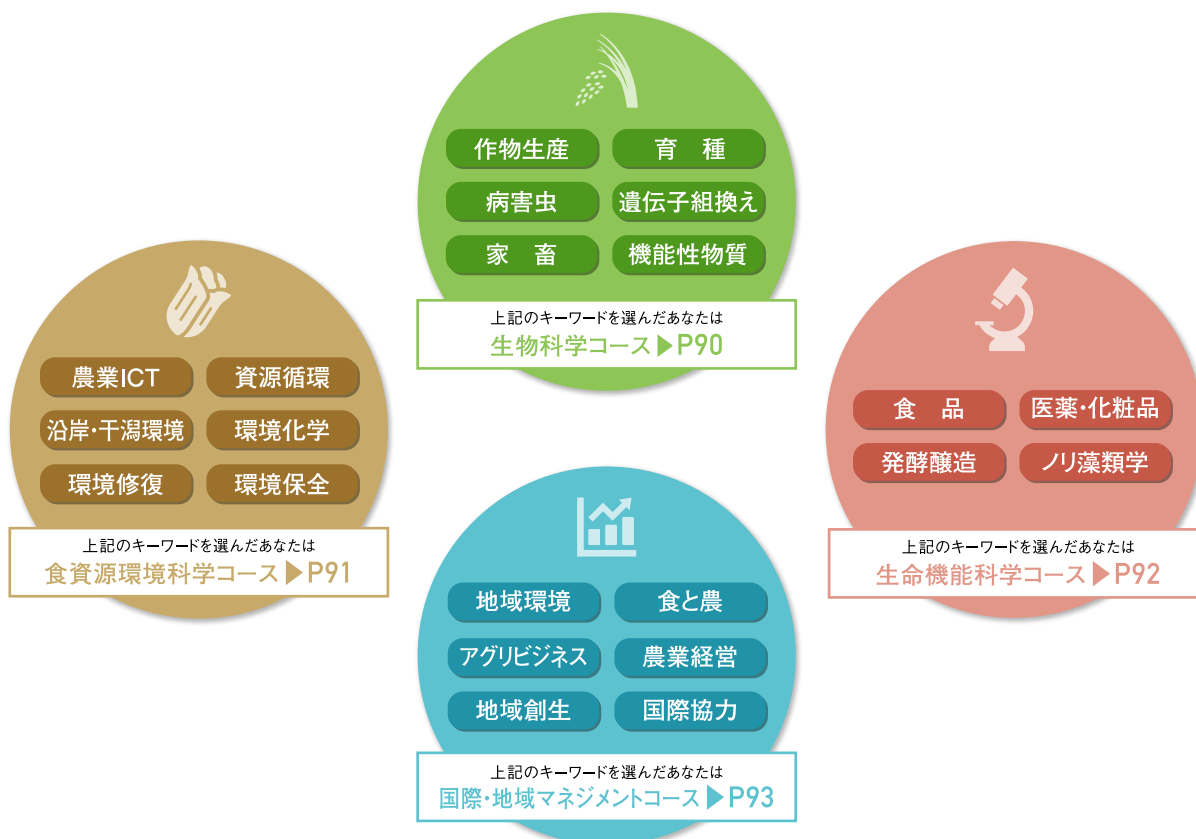
外国語でのコミュニケーション能力の強化と、地域社会の人々との協働に重点を置いた国内外でのインターンシップを実施します。地域のさまざまな企業や団体、開発の現場で通用する応用力と実践力を身に付けます。



KEYWORD SEARCH

気になるキーワードでぴったりの学びを見つけよう!

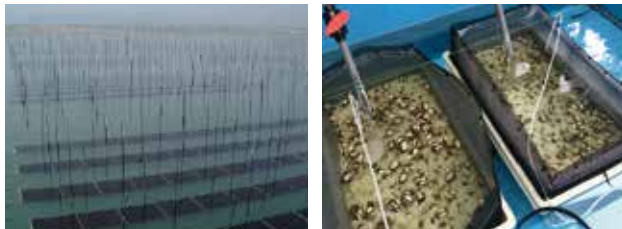
佐賀大学農学部で学べるさまざまなキーワードの中から気になるものを探して、あなたにぴったりの学びに関連するコースを見つけてください。



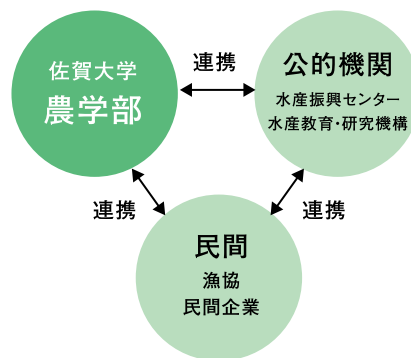
03 佐賀県を代表する「ノリ」「大豆」や「米」を研究する農水圏プロジェクト

佐賀県域の農水圏生物生産や利用技術等をより高度にしていくための試みが、農水圏プロジェクト事業です。さまざまな問題を抱える地域の農・水産業の課題解決・発展を図ることを目的としています。佐賀県の主力農産物のひとつである米や大豆についての研究を進め、佐賀大学発の農産物ブランド化戦略を行っているほか、水産学では水産物の高品質・安定生産を目指して、ノリや二枚貝等の遺伝子解析や代謝解析を実施。

佐賀県のノリを中心とした水産業を振興するため、ノリ研究に特化した人材の育成・輩出も行っていきます。佐賀県が誇る農水産物をさまざまな角度から研究することで、地域の発展に寄与します。



[ノリ基盤研究を県内で完結する体制]



04 「米」や「大豆」の品種改良の取り組み 自分たちでオリジナル品種の開発も

多様化する消費者ニーズに対応するために、米や大豆などのオリジナル品種の育成を目指して、学生自ら育種技術の開発や栽培技術の開発に取り組めます。附属アグリ創生教育研究センターで、実際にフィールド研究や遺伝子解析を応用した先端的な研究を行うことで、実践的な力も身に付けることができます。



農学部開発のオリジナル品種・商品

計画・実行・評価・改善を繰り返して育てる「オリジナルダイズ」

遺伝資源を活用した画期的品種の育成を目指し、機能性ダイズ品種の開発に着手。栽培試験やデータ解析、植物工場におけるコストと生産物品質の検証、その後さらに改善を繰り返して、独自性が高い高付加価値なブランド品種育成に取り組んでいます。



image

佐賀大学ブランドとして親しまれている清酒「悠々知酔」

毎年、地元の酒造会社と協力して行う佐賀大学ブランドの清酒。原料の米選びから酒造会社との打ち合わせまで農学部の生徒が主体となって行います。「The SAGA認定酒」として一般の方にも販売されており、毎年多くの人々から好評をいただいています。



「悠々知酔」の企画から販売までのプロセス

1

企画



テーマを話し合いで決定

これまでの研究成果を取り入れて、どのような酒を造るのか、そのためにはどのような戦略を練るべきかを、学生主体で話し合います。

2

醸造(造り)



酒造会社に協力を仰ぎ、共同作業

酒造メーカーにアポイントを取り、仕込みなどの打ち合わせ。スケジュールも細かく決めていきます。

3

製品化・販売



ようやく完成後一般の方にも販売

完成後は、佐賀大学生活協同組合のほか、一般の方にも手に取ってもらえるよう佐賀市内の酒販店で販売。

05 広いフィールドから 最新鋭の植物工場まで完備

土の感触を確かめ、動物とじかに触れ合うことができる「附属アグリ創生教育研究センター」をはじめ、2019年にはIoTを駆使した先進農業の研究開発に取り組める最新鋭の太陽光型植物工場を本庄キャンパスに開設。農業とは何か、ということに実際に取り組みながら触れていくことで、農業の未来を担うための実力を養います。

附属 アグリ創生教育研究センター / 太陽光型植物工場



アグリ創生
教育研究
センター

圃場を利用して作物や果樹の栽培研究を実践的に学習。

広いフィールドを使っでの農業学習のほか、食品加工などのプログラムにも取り組みます。



アグリ創生
教育研究
センター

JCCと連携し、農産物に含まれる機能性成分を研究。

ジャパンコスメティックセンター(JCC)と共に、化粧品素材としての成分研究を進めています。



太陽光型
植物工場

最新の施設生産技術を学ぶ植物工場。

農業新時代に対応するために開設された太陽光型植物工場。先端農業に触れられる実習施設です。

■ 教員紹介 (アグリ創生教育研究センター)

後藤 文之 教授
施設園芸学

上埜 喜八 准教授
作物生産学

福田 伸二 准教授
アグリ資源開発学

江原 史雄 准教授
動物行動管理学

川口 真一 准教授
有機化学

川添 嘉徳 准教授
ケミカルバイオロジー

松本 雄一 講師
機能性植物資源学

■ 施設紹介



複合環境制御室

温室内の環境要因(温度、湿度、二酸化炭素、光量、水量、肥料)をコントロールしながら、植物の生育に最適な環境条件を解析します。



ガラス温室

ミカン垂科植物やダイズなどの有用遺伝資源を保存するためのガラス温室です。これらの遺伝資源を活用し、次世代の新品種育成や新しい栽培技術の開発を行います。



藻類培養用恒温室

有明海を代表する食材海苔(スサビノリ)・植物プランクトンなどの藻類を培養する恒温室です。ノリの新品種開発や藻類の機能などを解析するための培養を行っています。



地域社会開発学演習室

各自のフィールドワークの結果をそれぞれのゼミで発表し、討論することによって議論を深めるため、演習室では学部生や院生による活発なゼミが行われています。



株式会社海の中道 海洋生態科学館
マリンワールド海の中道 勤務
明石 夏澄さん
応用生物科学科 2017年3月卒業

[企業内容]
1989年に開館した福岡市東区にある水族館。日本初のダイバーショーを開催するなど、ファミリーが楽しめるイベントも豊富。

フィールドワークなど大学での経験が 今の仕事に役立っています。

大学時代で特に印象に残っているのは、ほぼ毎日過ごした研究室での日々です。月に1回はフィールドに出かけて、データを回収したり調査したりするのは楽しくもきつくもあり、やりがいがありました。その時間を過ごすことで、昔から考えていた「飼育員さんになる」「水族館で働きたい」という気持ちがさらに強くなったと思います。長年の思いが叶って今は地元の水族館・マリンワールド海の中道の飼育員として、大水槽、ウミガメ、クラゲ、深海生物、淡水魚を担当しています。餌やりや健康管理のほか、マイクを持って解説したり、フィールドで採集したりと、仕事内容はさまざま。覚えること・やることがたくさんあり、潜水士の資格も取得しました。大学時代に淡水魚を研究していたことが、今になって生き物の飼育や保全に非常に役立っています。将来は、当館の淡水魚展示の魅力をもっとアップさせ、多くの人に見てもらいたいです。





詳細情報はこちら



生物資源を活用し、 新たな農産物・品種を開発

地域の特色ある生物資源を活用した高付加価値の新規農産物や新品種の開発、効率的で収益性の高い農産物生産技術の開発、また多様な生物と環境との関わりや、新たな機能性を持つ生物素材の産業利用に関する教育研究を行っています。食用植物や園芸・薬用植物、植物病原菌、共生微生物、ウイルス、昆虫、線虫や哺乳類など多様な生物を取り扱い、生物資源の開発と応用に関する幅広い学問分野をカバーしています。フィールドワークや豊富な実験が組み込まれたカリキュラムで学ぶことにより、遺伝子や細胞レベルから、個体レベル、さらには生物間相互作用を基本とする生態系レベルまで、幅広い内容の専門知識と先端技術を修得することができます。

取得可能な免許・資格

●中学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(農業) ●食品衛生管理者 ●食品衛生監視員 ●家畜人工受精師受験資格 ●普及指導員受験資格(実務経験必要)

想定される進路

〈就職先〉

公務員(佐賀県、福岡県、大分県等)、ヤクルトヘルスフーズ(株)、八江農芸(株)、(株)久原本家、アース製薬(株)、昭栄化学工業(株)、(株)ジェイエイピバレッジ佐賀、キューサイ(株)、(株)フランソア、(株)福岡九州クボタ、(株)やまや、(株)ピオフェルミン製薬

※2022年度卒業生より想定される進路の一例です。

カリキュラム一覧

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	大学入門科目			
	共通基礎科目「英語」	共通基礎科目「英語」			
	共通基礎科目「情報リテラシー」	共通基礎科目「情報リテラシー」			
	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)			
		インターフェース科目			
学部共通	基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
専門教育科目	専門導入	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学 ●生物化学	●栽培学汎論 ●土壌学 ●生物統計学	●農業経済学 ●食品科学	
	専門科目		●生物科学概論I-II ●応用動物昆虫学 ●植物生理学 ●遺伝学 ●園芸学 ●生物学実験 ●フィールド科学基礎実習I-II ●群集生態学 ●昆虫学 ●線虫学	●食作物学 ●植物育種学 ●植物病理学 ●畜産学 ●行動生態学 ●植物栄養学 ●熱帯作物学 ●野菜花卉園芸学 ●昆虫学 ●応用生物学実験 ●応用化学実験 など	●植物代謝解析学実験I-II ●果樹園芸学実験I-II ●熱帯作物改良学実験I-II ●野菜花卉園芸学実験I-II ●植物分子育種学実験I-II ●動物資源開発学実験I-II ●植物病理学実験I-II ●線虫学実験I-II ●昆虫学実験I-II ●生態学実験I-II
					●卒業研究 ●生物科学演習I-II

授業紹介

応用動物昆虫学



昆虫、線虫、ダニなどの発育と個体数を制御して被害を軽減する方法を理解するための基礎として、これらの動物の生理・生態について学びます。

果樹園芸学

果樹を含む園芸作物全般の生理現象について講義し、果樹の品種、分類、遺伝・育種、栽培生理、健康機能性成分について理解を深めます。

動物繁殖生理学

生命の連続性を理解するために哺乳動物における生殖現象の基礎を学び、当該分野において開発された技術の社会での活用について理解します。

教員紹介

穴井 豊昭 教授 植物遺伝育種学	一色 司郎 教授 野菜花卉園芸学	石丸 幹二 教授 植物代謝解析学	大島 一里 教授 植物ウイルス病制御学
後藤 文之 教授 施設園芸学	鈴木 章弘 教授 作物生態生理学	鄭 紹輝 教授 熱帯作物改良学	和田 康彦 教授 動物資源開発学
上埜 喜八 准教授 作物生産学	江原 史雄 准教授 動物行動管理学	草場 基章 准教授 植物病理学	古藤田 信博 准教授 果樹園芸学
辻田 有紀 准教授 野菜花卉園芸学	徳田 誠 准教授 システム生態学	西田 翔 准教授 植物栄養学	福田 伸二 准教授 アグリ資源開発学
藤田 大輔 准教授 熱帯作物改良学	山中 賢一 准教授 動物資源開発学	吉賀 豊司 准教授 線虫学	松本 雄一 講師 機能性植物資源学
渡邊 啓史 講師 植物遺伝育種学			



詳細情報はこちら



地球規模の課題に向き合い、 解決へと導く実践力を養う

環境保全・エネルギー・農業生産システムに関する先端技術の開発と利用は、地球規模に値する重大かつ重要な課題です。食資源環境科学コースは、これらの課題を解決するための教育、研究を行うことで、地域社会からの需要に応える農業の技術革新を先導し、地域の農業基盤を根底から支えることを目標としています。そのために農業機械・植物工場・コンピュータや通信等のICT技術、また食品研究から土壌や環境水の分析化学等、さまざまな農業生産に関する先端技術を幅広く学ぶ機会を提供し、地域の農業現場をしっかりとリードする実践力を確実に養成していきます。なお、このコースは農学部における高等学校理科教員免許の主コースとなっています。

取得可能な免許・資格

- 中学校教諭一種免許状(理科) ● 高等学校教諭一種免許状(理科) ● 高等学校教諭一種免許状(農業) ● 食品衛生管理者 ● 食品衛生監視員 ● 測量士補受験資格 ● 自然再生士補 ● 1級及び2級土木施工管理技士受験資格(実務経験必要) ● 普及指導員受験資格(実務経験必要)

想定される進路

- 〈就職先〉
民間:(株)三祐コンサルタンツ、鹿島建設(株)、松尾建設(株)、ヤンマー(株)、(株)OPTIM、三和酒類(株)／公務員:佐賀県庁、熊本県庁、長崎県庁、福岡県庁、大分県庁
- 〈進学先〉
大学院進学:佐賀大学大学院、九州大学大学院など

※2022年度卒業生より想定される進路の一例です。

カリキュラム一覧

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	大学入門科目			
	共通基礎科目「英語」	共通基礎科目「英語」			
	共通基礎科目「情報リテラシー」	共通基礎科目「情報リテラシー」			
	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)			
	インターフェース科目	インターフェース科目			
学部共通	基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
専門教育科目	専門導入	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学 ●生物化学	●栽培学汎論 ●土壌学 ●生物統計学	●農業経済学 ●食品科学	
	専門科目		●環境基礎解析学I・II ●応用力学 ●応用力学演習 ●生産情報処理学 ●農業水理学 ●農業気象科学基礎実習I・II ●フィールド科学基礎実習I・II ●栽培環境制御学 ●生化学 ●遺伝学	●土壌環境科学 ●地盤環境学I ●環境水理学I ●環境水理学演習I ●農業生産機械学 ●農産食品流通貯蔵学 ●栄養化学 ●食品化学 ●植物栄養学	●英語講読 ●環境水理学II ●環境水理学演習II ●食資源物質工学 ●測地学I・II ●測地学演習I・II ●地盤環境学II ●農村環境計画学 ●設計・製図学 ●実験水気環境学
					●卒業研究 ●食資源環境科学演習 ●農業工学総合演習

授業紹介

農産食品流通貯蔵学



青果物に含まれる栄養成分の種類と性質を知り、その品質維持を図るために必要な選別、洗浄、包装、貯蔵、輸送技術などについて学びます。

干潟環境学

有明海の干潟をフィールドケースに、干潟を取り巻く沿岸域の水環境や干潟の生態系と物質循環について学び、干潟の保全とワズユースについて理解を深めます。

食資源物質工学

食産業や化粧品産業で扱われるどんな物質が、健康産業にどのようなプロセスで活用されているかを、大学の教養課程で学んだ知識をもとに講義します。

教員紹介

- | | | |
|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 北垣 浩志 教授
食資源情報学 | 田中 宗浩 教授
農業環境・情報工学 | 弓削 こずえ 准教授
灌漑科学 |
| 阿南 光政 准教授
水環境保全学 | 稲葉 繁樹 准教授
農業(農産)機械学・情報科学 | 上野 大介 准教授
におい・かおり環境化学 |
| 郡山 益実 准教授
浅海干潟環境学 | 速水 祐一 准教授
沿岸海洋学 | 原口 智和 准教授
生態環境工学 |
| 宮本 英揮 准教授
地域環境工学・計画学 | 徳本 家康 助教
農業環境・情報工学 | |



詳細情報はこちら



生命科学を理解し、科学的に思考できる人材を育成

多様な生物の生命現象を分子レベルで解明するとともに、生物資源が持つユニークな機能を開発・利用することを目的に教育と研究を行います。生体における遺伝子発現や物質代謝とそれらの調節機構、食品の生体調節機能・栄養機能・物性や安全性について、基礎から専門に至る積み上げ方式で教育を行います。また、多様な生物の生命現象の解明、バイオテクノロジーを駆使した生物機能の改良と有用物質生産システムの開発、生物資源の生理機能や特性の化学的・栄養生理学的解析に基づく機能性食品の開発、食品の品質評価に関する研究を行っています。これらを通して生命科学、食糧科学について基本的な理解を深め、社会で活躍できる思考力と実践力を有する人材の育成を目指しています。

取得可能な免許・資格

- 食品衛生管理者 ●食品衛生監視員 ●中学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(農業) ●普及指導員受験資格(実務経験必要)

想定される進路

〈就職先〉

企業(山崎製パン、東洋水産、不二家、久原本家、キッセイ薬品工業、積水メディカル、アステラスファーマテックなど)／公務員(県庁、農業試験研究センター、市町村役場)／教諭(中学、高校、大学)／法人団体(JA、化学物質評価機構など)

※2022年度卒業生より想定される進路の一例です。

カリキュラム一覧

		1年次	2年次	3年次	4年次	
教養教育科目	学部共通	大学入門科目 共通基礎科目「英語」 共通基礎科目「情報リテラシー」 基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)	インターフェース科目			
	基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学 ●基礎数学 ●基礎統計学				
専門教育科目	専門導入	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学 ●生物化学 ●栽培学汎論 ●農学経済学 ●農業ICT学 ●食品科学 ●生物統計学				
	専門科目など		●物理化学 ●有機化学 ●分析化学 ●生物有機化学 ●生化学 ●酵素化学 ●微生物学 ●食品衛生学 ●栄養化学 ●食品化学 ●分子生物学 ●化学実験I・II	●食糧安全学 ●食品工学 ●食品機能化学 ●応用微生物学 ●食糧流通貯蔵学 ●水圏生物学 ●分子細胞生物学 ●生物資源化学 ●遺伝子工学 ●基礎放射線科学	●コスメ産業学 ●藻類学 ●生命機能科学概説 ●生化学実験 ●微生物学実験 ●インターンシップS-L ●基礎演習 ●生命機能科学演習I ●専門外書講読	●卒業研究 ●生命機能科学演習II・III ●生物学基礎実験

授業紹介

栄養化学



食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、栄養素がどのように代謝されどのような役割を果たしているのかの基礎知識を修得します。

化学実験II

食品に含まれる各種成分の分離、分析、定義を行う実験手法、器具の操作方法について学び、科学的な思考を行う能力および観察力を身に付けます。

分子生物学

生命現象に欠かせないタンパク質、核酸(DNA、RNA)の構造と機能、遺伝子の発現、細胞の制御機構について講義し、学びを深めます。

教員紹介

- | | | |
|-------------------------|---------------------|-----------------------|
| 川村 嘉応 特任教授
水圏生産科学 | 後藤 正利 教授
応用微生物学 | 小林 元太 教授
応用微生物学 |
| 宗 伸明 教授
分析化学 | 永尾 晃治 教授
食品科学 | 濱 洋一郎 教授
水圏生命科学 |
| 林 信行 教授
食品科学 | 上田 敏久 准教授
生物有機化学 | 川口 真一 准教授
有機化学 |
| 川添 嘉徳 准教授
ケミカルバイオロジー | 木村 圭 准教授
水圏生産科学 | 出村 幹英 特任准教授
生物資源科学 |
| 野間 誠司 准教授
食品科学 | 光武 進 准教授
応用生物化学 | 井上 奈穂 准教授
食品科学 |
| 関 清彦 講師
応用生物化学 | 辻田 忠志 講師
生化学 | 折田 亮 助教
水圏生産科学 |
| 堀谷 正樹 助教
生体関連化学 | 本島 浩之 助教
応用生物化学 | |



詳細情報はこちら



地域を知り、体験し、人々と出会い成長する

国際・地域マネジメントコースは、グローバルな視野で、地域社会で暮らす人々の生活や生業、環境や健康の問題の解決と地域の振興に貢献することを目指し、農林漁業やその関連産業の持続的な成長を担う人材の育成を目的としています。「地域」の問題を考えるには、まずその「地域」のことをよく知ることが大事です。そのため、実際に「地域」を訪問し、自分の目でよく見て学びます。学ぶ内容は、自然環境・経済・社会・文化など幅広く、そこで暮らす人々との交流を通じて学ぶことを特に大切にしています。このような考えから、本コースでは、国内外でのフィールドワークを重視した特徴ある教育プログラムを準備しています。

取得可能な免許・資格

●中学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(理科) ●高等学校教諭一種免許状(農業) ●普及指導員受験資格(実務経験必要)

想定される進路

〔就職先〕
公務員、団体職員(JAなど)、アグリビジネス関連企業、金融機関(銀行など)、報道機関(新聞・放送)、教諭(中学・高校)、農業(農業法人・自営)、NPO・NGO団体
〔進学先〕
大学院進学・佐賀大学大学院など

※2022年度卒業生より想定される進路の一例です。

カリキュラム一覧

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	学部共通	大学入門科目 共通基礎科目「英語」 共通基礎科目「情報リテラシー」 基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)			
	専門導入		インターフェース科目		
専門教育科目	基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学 ●基礎数学 ●基礎統計学			
	専門科目	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学 ●生物化学 ●栽培学汎論 ●土壌学 ●食品科学 ●農業経済学 ●生物統計学	●国際・地域マネジメント入門 ●アジア地理学 ●農村地理学 ●農業市場流通学 ●群集生態学 ●地域再生論 ●地域マネジメント論 ●国芸学 ●農業水利学 ●人間開発論 ●社会調査実習I-II ●フィールド科学基礎実習I-II ●環境社会学 ●国際地域調査法 ●国際関係学要説 ●栽培環境制御学 ●経済法I ●昆虫学 ●経営管理論 ●農業生産機械学 など	●生態人類学 ●農業ビジネスマネジメント学 ●比較農政学 ●開発経済論 ●農村環境計画学 ●農村と産業演習I-II ●環境と生活演習I-II ●実践語学 ●アジア・フィールドワーク ●民法IV・II ●インターンシップ S-L ●経営史 ●農村社会学 ●人口学 ●地域資源論 ●アグリビジネス論 ●協同組合論 ●環境法 ●干潟環境学 ●科学英語	●卒業研究I ●アカデミック・プレゼンテーションI-II ●国際・地域インターンシップ ●卒業研究II

授業紹介

国際地域調査法



農業や農村が抱える諸問題に取り組むために必要な調査技法や理論を学び、後期からの授業や卒論で実際のフィールドワークに応用していきます。

農村社会学

地域社会の基礎構造について学び、フィールドワークの際に、その背景となる地域コミュニティの情報を多面的に捉える視点と方法を修得します。

農村と産業演習

農業経営の管理や成長に関わる多岐にわたる課題の中から具体的な問題を設定し、その解決に向け、グループワークによって情報の収集と分析、考察を行います。

教員紹介

藤村 美穂 教授
環境社会学・農村社会学

辻 一成 准教授
農業経済学・農業経営学

中井 信介 准教授
文化人類学・地理学

藤井 直紀 特任助教
海洋生物学